

# 愛知豊明花き地方卸売市場における鉢物の状況変化

豊明花き株式会社  
福永 哲也

## 花卉業界に及ぼした影響

本年は1月当初より前年を上回る取引を毎回重ね、順調に推移しておりました。

しかし、2月27日に安倍総理より全国すべての小中高校に臨時休校要請の考えが公表されると、卒園式、卒業式、謝恩会といった卒業シーズンの行事に使用される装飾、ノベルティ、贈答などの花き消費に大きな影響を与えました。

さらに3月6日の福島Jビレッジからの聖火リレーの中止、3月24日には東京オリンピック、パラリンピックの1年延期が決定し、花き業界一丸となって取り組んでいたビクトリーブーケも先送りとなりました。ビクトリーブーケは2014年のソチ冬季大会を最後に、2016年のリオ夏季大会、2018年の平昌冬季大会と、副賞のブーケが使用されなくなったことを受けて、花きに関わる9団体、(一社)日本花き生産協会、(一社)日本花き卸売市場協会、(一社)JFTD、(一社)インドアグリーン協会、(一社)日本生花商協会、(一社)日本花卸協会、(公益)日本いけばな芸術協会、(公益)日本フラワーデザイナー協会、(一社)花の国日本協議会が日本花き振興協議会を組織して、オリンピック組織委員会や政府与党、国などの関係機関に働きかけ、6年振りに復活することが決定したものです。幸い、中止ではなく延期でありますので、来年に向けて準備を進めることになりました。

4月7日には東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言が、さらに4月14日には全国に緊急事態宣言が発出されました。

この時点で休業要請される業種、イベントの中止、延期などの先行きが不明確であったために、母の日ギフトの取引にも影響が出ました。

国民生活の維持に必要な業種と福祉施設以外は休業要請が出され、不要不急の外出を避けたステイホームが呼びかけられました。卸売市場は生鮮食料品等の流通を行うために、事業継続計画を定めて、適切な感染予防対策を講じながら事業継続が求められました。

当社においても役職員、パートの毎朝の検温と体調に関するアンケート調査、必要に応じて自宅待機による経過観察、場内30か所に消毒液の設置と利用、競り室の座席を隔席に制限、競り端末消毒用に除菌シートの設置、場内でのマスク着用と手洗い、うがいの励行、出入り口に除菌マットの設置、等々の実施で感染予防に努めながら日々の業務を継続しました。なお、現在もこの措置は継続しております。

生花店、園芸店、ガーデンセンター、ホームセンター、スーパーマーケットなどの花きの小売現場は事業継続をする業種でありましたが、テナントとして入っている商業施設が閉鎖されることで休業を強いられたケースもありました。

5月25日に全国的に緊急事態宣言が解除されても、イベントや会合、商談会などの開催は自粛され、いわゆる夜の街もひっそりと静まり返る日々が続きました。

このような状況下、鉢物で最も影響を受けたのは胡蝶蘭でした。

なかでも大輪の胡蝶蘭は式典、開店祝い、周年祝い、夜の街でのギフトなどが主たる用途であり、行き場を失った胡蝶蘭は相場もたたない事態となり、産地では切花に転用したり、消費者への直売を試みる動きもありました(グラフ:ファレスタンダードの売上高推移)。

例年は法人や組合の定時総会が多く開催される2月、式典や謝恩会、異動の3月に需要が高まります。今年は2月までは例年並みに動きましたが、3月に学校関係の行事が不透明になり影響が出ました。3月中頃から持ち直すかと思われましたが、緊急事態宣言の発出された4月には飲食店関係が営業自粛となり、いわゆる夜の街需要が消滅しました。

5月の母の日ギフトは高齢者への感染予防から訪問して届けるよりも、宅配によるお届けが選択され、容積率の高い大輪系胡蝶蘭はふるいませんでした。6月には年度末決算の定時総会が開催されますが、この時期になるとリモートや書面決議での開催を選択する法

人が増えて、会場を飾る需要は前年並みには回復しませんでした。

8月末に安倍総理の辞任表明から菅内閣の組閣があり、特需として取引が活発化しました。

一方で外出を控え、自宅で過ごす時間が増えたことで伸びたのが野菜苗や花苗です。

繁華街の商業施設や観光地に行かず、近所のホームセンターやガーデンセンター、園芸店、生花店に花や緑を求める人々が集まりました。

花売り場など不要不急ではないのでけしからんと店舗にクレームを言う自警団的な方もいたようです。もちろん花は食べ物ではありませんが、暮らしの必需品として人々が求めていることを実証する結果となりました（グラフ：野菜苗の売上高推移、花苗の売上高推移）。

ステイホームに生活様式が移行するにつれ、庭やバルコニーで野菜や花を育てることに取り組む人が増えました。従来から育てていた人に加えて、今回のことを契機に植物を育ててみようという新規顧客が売り場に足を運びました。例年ですと梅雨入りから徐々に落ちていくのですが、7月、8月と前年を上回り、9月以降もその傾向は続いています。

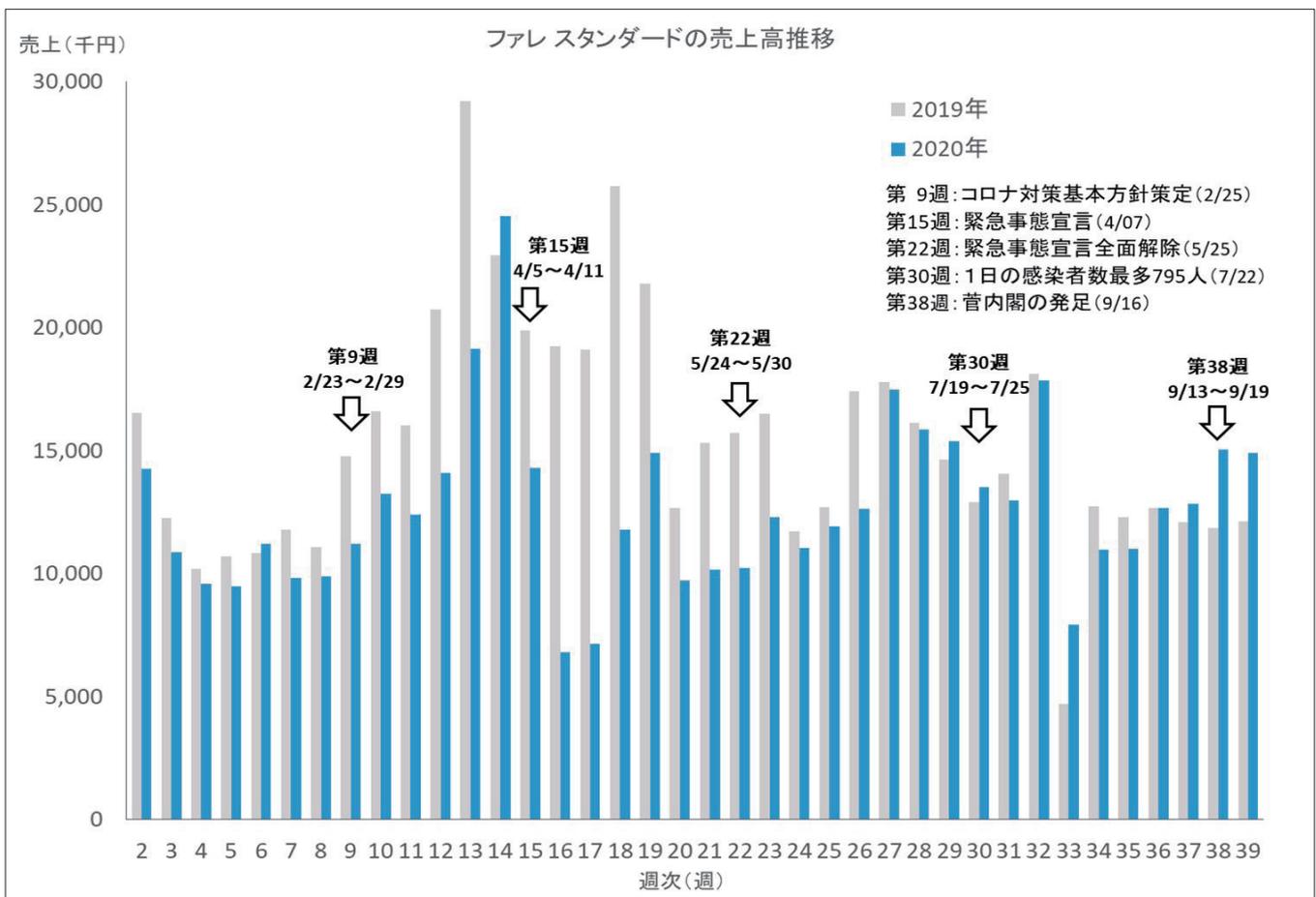
室内で過ごす時間も多くなり、インテリアとしての観葉植物も売れました（グラフ：観葉植物の売上高推移）。

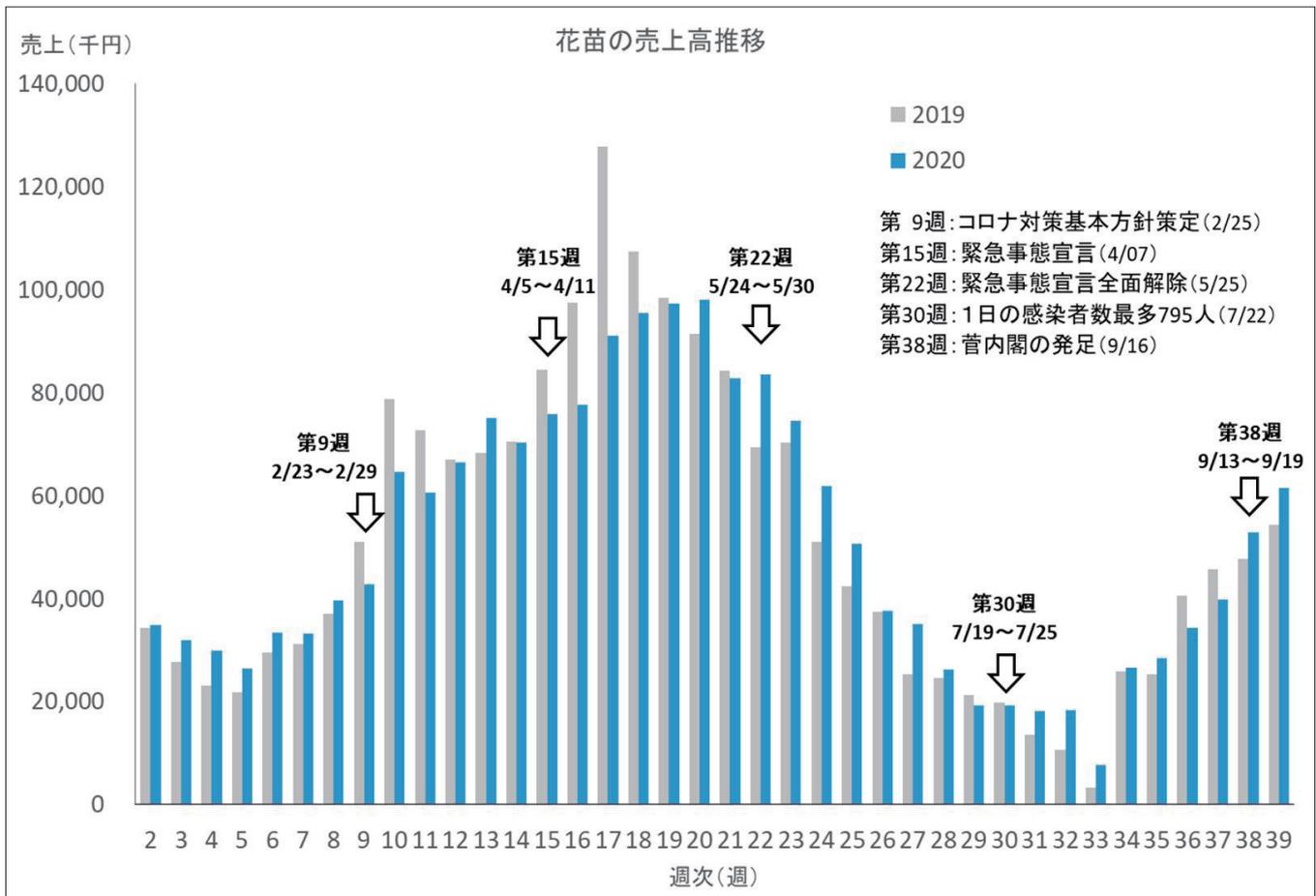
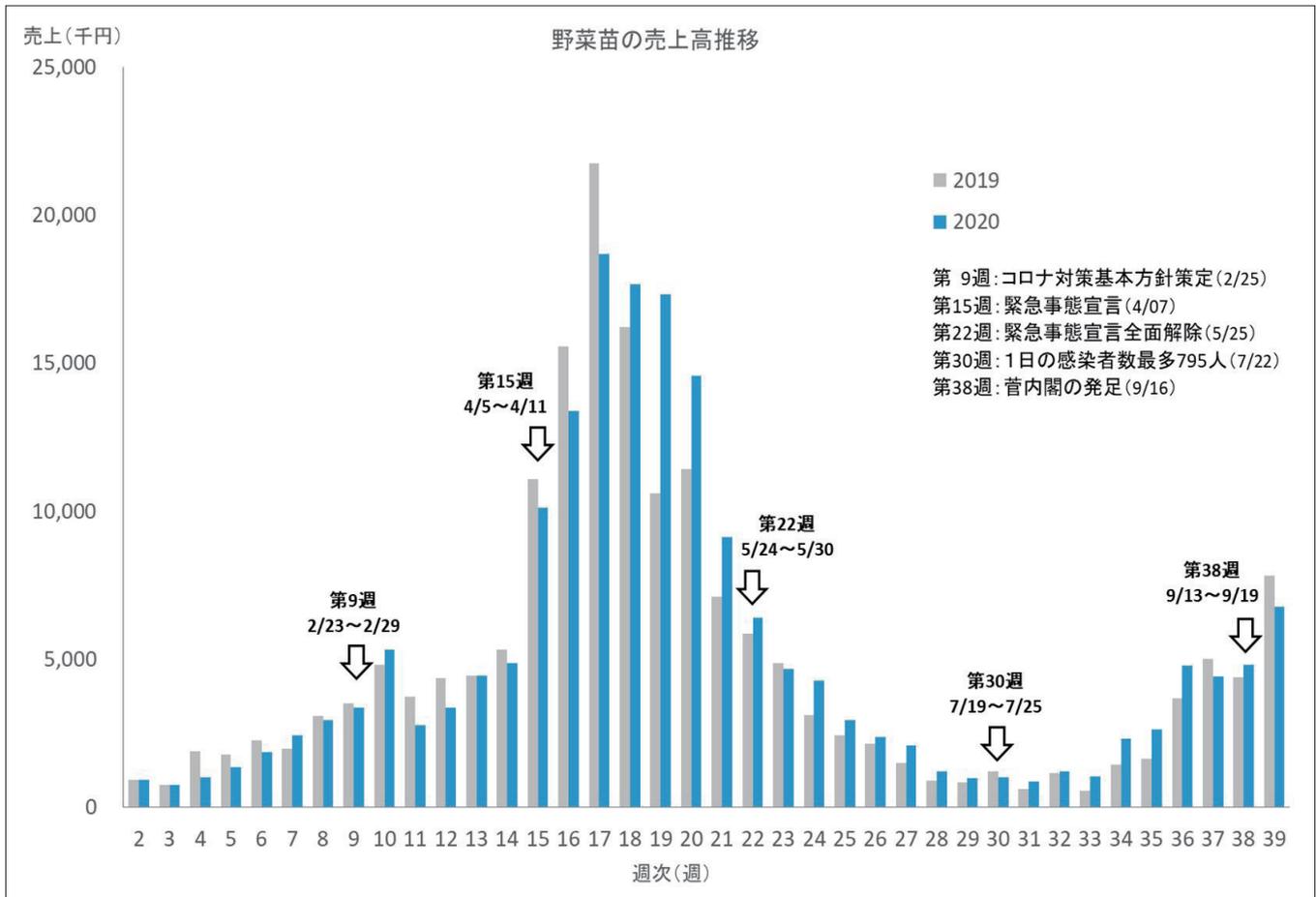
緊急事態宣言全面解除の22週以降も前年を大きく上回り、どこにも出かけられずに雨の日が続く梅雨時も熱中症の危険がある夏の日も、癒しを与えてくれる観葉植物は人気となりました。夏が終わり、涼しさを感じるようになった9月にも好調を維持しております。

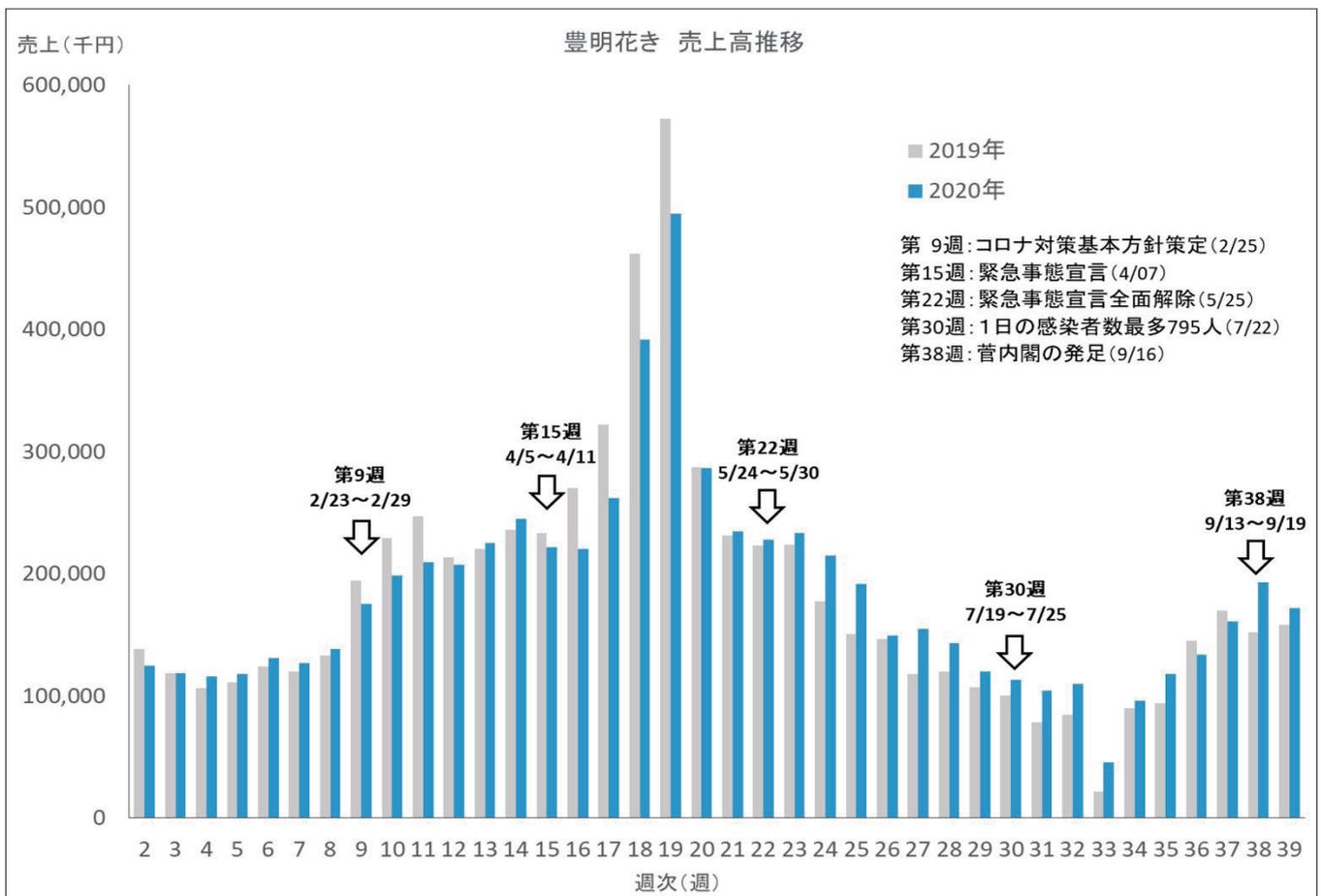
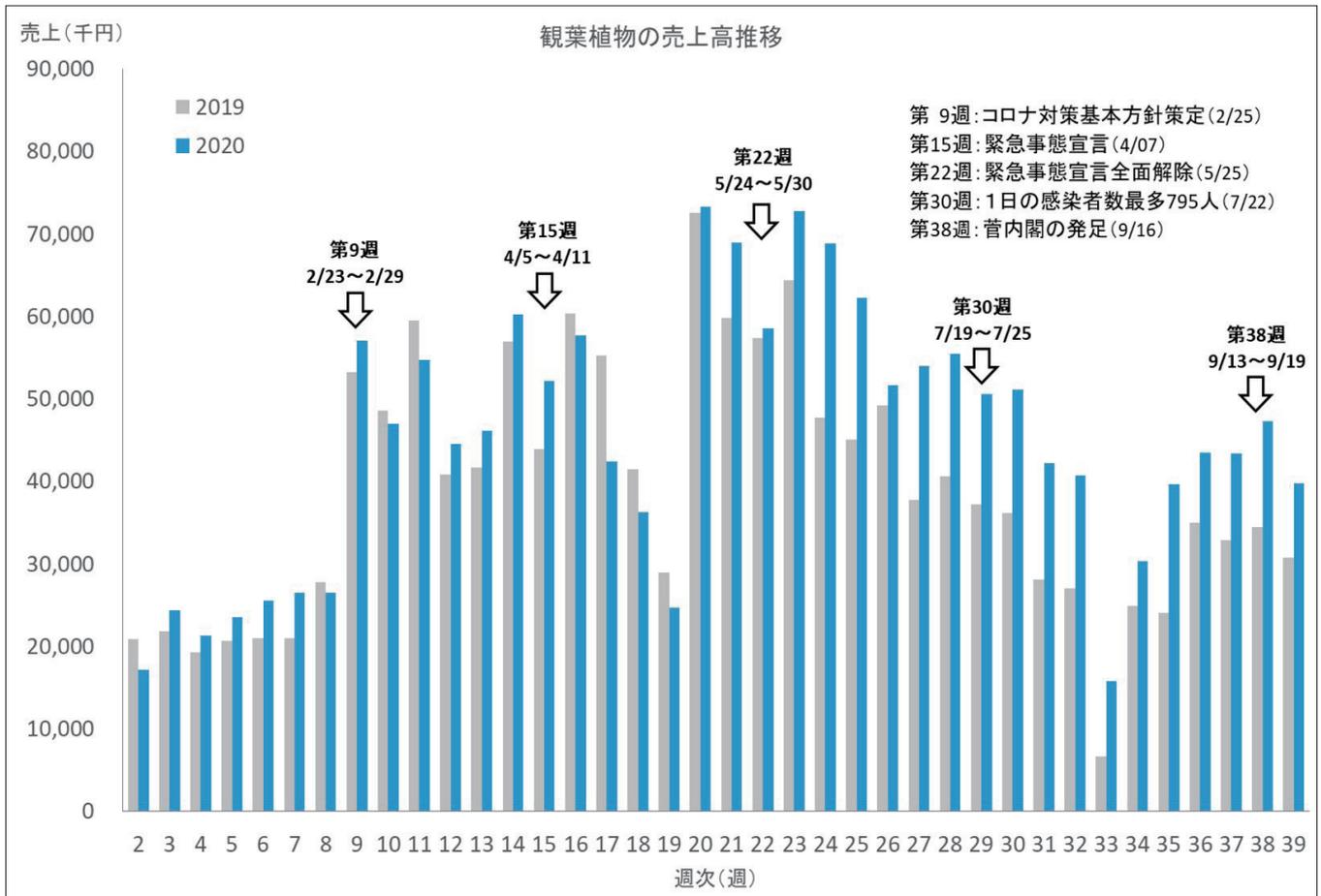
市場での取引も商品確保のために注文が増え、委託販売品についても競売前に相対取引で引き合いが強くなっており、競売にかかるものが少なくなっています。そこで、商品確保のために注文取引が増えるという流れになっています（グラフ：豊明花き売上高推移）。

ここ数年、母の日という物日一極集中傾向が続いていた鉢物取引でしたが、新型コロナウイルスにより3月、4月、5月のハイシーズンは影響を受けたものの、その後はステイホームから新規顧客が創出され、日常で花や緑を楽しむホームユースの需要が高まっています。

花き業界としては、新たに植物を購入し始めた人々へのフォローを行い、定着化を図ることが重要です。







## リモート商談会 DX 化への取組

卸売市場では競売日の取引以外にも様々なイベントを通じて、産地と買受人をつないでいます。

そのひとつが JFI トレードフェアです。春、夏、秋、冬と年間 4 回の展示商談会を開催しています。



JFI トレードフェア

全国の生産者が出展者となり、サンプルと販促物を市場内に持ち込んで展示ブースをセッティングします。最大となる春のトレードフェアでは約 400 社 750 名を超える出展者が 750 ブースに 5000 点ほどの商品を陳列します。

そこに豊明花きの登録買受人とその取引先、約 1300 人のバイヤーが来場して取引を行います。卸売市場が行う商談会として、さらに植物の商談会としても国内最大級を自負しています。

ところが JFI トレードフェアにはスタッフも合わせると 2,300 人を超える人々が密集することになります。新型コロナウイルスにより JFI トレードフェアを開催することは困難と判断し、開催を見送ることになりました。

しかしながら JFI トレードフェアでは 1 億円前後の取引が成立しており、この日のために用意してきた生産者や販売計画に基づき仕入れを予定していた買受人の皆様は、今年は中止しますでは申し訳ありません。

そこで、当社のインターネット取引システム「イロドリ\*ミドリ」を使い、ネットで行うリモート商談会「トレードフェア DX2020 夏」を開催しました。

リアルなトレードフェアでは出展者はサンプルを豊明花きまで運び、前日にブースの設営をして、翌朝からブースにて商談、終了後に撤収して帰られていました。遠隔地の方は一泊二日で参加をしており、すべてのコストが「トレードフェア DX」ではかからなくな

ります。

生産者は農場や事務所から手順に従って商品登録作業を行うだけで済みます。

また、市場内という限られたスペースからブース数を制限して出展受付をしていましたが、システムに商品登録をするだけなので、出展者数を制限する必要がなくなりました。

このことで、より多くの出展者と登録商品が商談会に揃うこととなりました。

さらに、受注可能な商品はトレードフェア実施期間終了後も販売を継続するために、生産者はトレードフェア DX のために商品登録を作業として行うだけで、その後の取引にもつながるメリットがありました。

また、産地から生産者にサンプルを持参していただき、その商品の説明をした後に質問時間を設け、その場で注文を受け付ける商品説明会も Zoom とイロドリ\*ミドリを組み合わせて、商品説明会 DX を行いました。

事前に生産者に説明する商品をイロドリ\*ミドリに登録してもらいます。司会進行を当社から担当社員が行い、産地から Zoom を経由して商品の説明を行い、Zoom に参加した買受人の方々にライブで説明を視聴していただきます。商品に関する質問をその場でしていただき、生産者がそれに答える。リアルでの商品説明会と同じやり取りが可能となります。

そして、発注書に記載していた作業をスマホやタブレット、PC から入力して取引成立となります。

Zoom には録画機能があり、リアルで参加出来なかった買受人の方も説明の様子を視聴して、発注することが出来ます。

このように行動が制限されたことで、DX 化が推進されるメリットも出てきました。

## 今後の展開

ステイホームをきっかけに新規顧客となった人々をどのように定着化させるのか。そしてアナログで行ってきたサービスを DX 化によって、より利便性が高く、効率的なものにしていくのか。

ピンチがチャンスになっていると感じています。花き業界にとってコロナ禍を「塞翁が馬」にしていくのは我々自身だと思えます。

イロドリ\*ミドリ限定 トレードフェア

# TRADE FAIR DX

## 2020 Summer

前回よりさらにパワーアップ！  
10カテゴリーの商品カタログ

観葉 鉢花 多肉・サボテン  
鉢花 花苗 観賞樹  
ラン

多肉・サボテン  
現品・数量限定  
2021母の日商材  
資材 切花

**開催期間**  
5.21 14:00 (木) ~ 5.31 14:00 (日)

※イロドリ\*ミドリ限定のトレードフェアです。弊社での商品展示はございません。  
※出展商品は5/21 (木) 14:00以降 順次公開となります。

夏商材株式会社

豊明花き株式会社様

商品カタログ

アロエ ホリフィア 35号 10入

オベルクリカリア デカリヤ 70号 1入

オベルクリカリア デカリヤ 70号 1入

サボテン 40号 2入

ユーフォルビア(タニク) 50号 6入

キッコウリョウ 120号 1入

ストレプトカーパス サクソルム 35号 15入

ストレプトカーパス サクソルム 50号 5入

ヒベリカム'マープル イロー' 30号 24入

アデニウム アラビカム 45号 8入

アデニウム オベスム 40号 11入

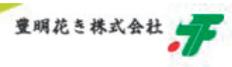
ハイビスカス'アジア カゼ'(シリーズ) 40号 8入

ハイビスカス'アジア カゼ'(シリーズ) 60号 3入

ブルメリア 50号 6入

ハイド'サファリワーナー ピンク' 50号 4入

トレードフェア DX2020

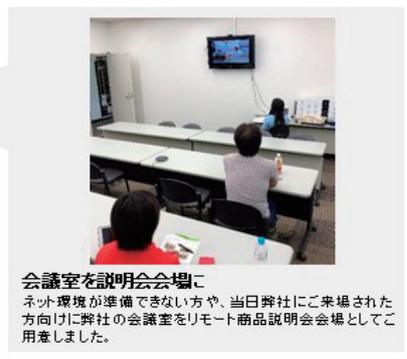


## リモートによる商品説明会の実施 (商品説明会DX)



### 商品説明会のDX化

リモート商品説明会のしくみ



夏商品説明会 (DX)